

③ 聞き手を考えて発表できたか。
(メッセージカードと自己評価から確かめる。)

④ 表現上の向上が見られたか。
(学習の手引きを回収し発表原稿から確かめる。)

⑤ 「表現2」の学習全体を通して、表現学習
に対する意欲の向上が見られたか。
(意識調査と自己評価から確かめる。)

⑥ 国語学習に関する意識の変容が見られた
か。
(事前・事後意識調査から確かめる。)

(2) 指導の概要と考察

① 「聞く力」の実態と正確に聴き取るため
の意識付けについて

生徒の「聞く力」の実態把握と正確に聴き取る
ための意識付けをねらい、次のような手だて
を考え実践した。

○ 学習活動の中にメモを取る習慣を身につ
けさせる訓練

これは、話を聞かるときに話し手に注目して聞
く訓練と、話を聞きながら自分なりのメモを取
る訓練とを並行して進めることから始めた。段
階としては、第一段階「話を聞きながら、概要
を捉え自分なりの解釈で書き込む」、第二段階
「相手の話の内容を理解し、自分の考えと比較
しながら書き込む」、第三段階「自分に必要な
内容を整理し、考えながら書き込む。」の3つ
で考えていたが、生徒のノートやワークシート
から判断すると、6割の生徒が第一段階であり、
3割程度が第二段階である。メモを取ることが
全くできないままの生徒が2名見られた。しか
し、話を聞かるときに真剣に聞かせるという目的
は、ほぼ達成された。インタビュー活動を行う
時において、必要不可欠な訓練であると考える。

○ 「listeningテスト」による「聞く力」
の実態把握と意義付け

「listeningテスト」は、中学道徳「明日を
ひらく1」(東京書籍)の「いじめっ子の気持ち」
を用いた。このテストから、生徒の聴き取り
能力の実態を把握するとともに、生徒にとっ
ては「相手の話をしっかりと聞くこと」が意義
付けられたように感じる。「検証授業1」のイ
ンタビュー活動では、相手の話をしっかりと聴
き取ることに重点をおき、不明瞭なところは何
度か聞き直し取材するよう指導し、学習の効果
が上がった。普段の学習の中でも、以前に比べ
て聞く姿勢が良くなり、理解の速度も速まった。

② インタビュー活動による学習意欲と表現
活動について

自己評価から見ると9割以上の生徒が「積極
的に取り組めた」の質問にAかBの自己評価を
つけた。実際、学習活動中の生徒の表情も生き
生きとし、今までの小集団では見られない活発
さがあつたことを考えても、学習意欲の高まり
があつたように思う。

表現活動においては、どの生徒も自分の体験
の掘り起こしに戸惑っていたのだが、インタビ
ューによる取材で読み手・聞き手の要求に気が
ついたことがうかがえる。「自分自身の体験を
振り返り、印象的なことを書き出そう」という
学習では、作文を書く際に見せる戸惑い「何を
書いたらよいかわからない」が例に漏れず見ら
れたのは事実であった。しかし、インタビュー
活動によって、次から次へと出る質問は、読み
手・聞き手の要求そのものであつた。

③ 聞き手を考えての発表について

自己評価の内容から見ると、「相手の身にな
る」「相手の気持ちを考える」という表現が数
多く見られた。作文を書く場合、どうしても自
分だけの世界になりがちである傾向を打破する
ことをねらって考えた今回の学習計画であるが、